

---

# 君のその笑顔がどうしようもなく好き

山岡瀬流

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君のその笑顔がどうしようもなく好き

### 【Nコード】

N3602A

### 【作者名】

山岡瀬流

### 【あらすじ】

君のその笑顔が大好きです。あたしが告白して君の笑顔が消えてしまふなら、告白をなしにして？笑顔でいてね？

笑顔

キミの笑顔は太陽のように眩しくて、  
街灯よりも明るくて。

その笑顔は、あたしのココロを簡単にさらっていく。

ずっと笑顔でいてね？

「好きっ・・・！」

あたし、今告白してる。この14年の人生で、したこともなければ、されたこともない・・・でもその、キミの笑顔が誰かのモノになってしまったら・・・そう思うと抑えきれなくて、勢いなんかで告白なんてしちゃって。ナニヤツテンダロ。

「えっと・・・ホントにお前の事をよく知らねえし・・・」

やっぱり・・・だめなんだよ。初告白でOKもらっちゃったよーなんてうまくいくわけなくて。今のあたしなら、当然の結果だと思ってた。

「あ・・・突然告白なんて、ごめんね。迷惑・・・だったでしょ」

やだ。やめてよ。そんな顔しないで。笑っていてよ。いつもの笑顔は？どこへいったの？

コクハクナンテシナキヤヨカッタ。

君が笑わなくなるのならば。  
「・・・じゃあ、約束ね！」

えっ！とした顔で君はこっちを見た。一瞬でも目が合って嬉しかった。

「ずっと・・・笑っていてよ。あたしは、笑顔が好きなんだよ・・・？」

溢れてしまいそうな涙を必死にこらえた。  
泣いたら・・・君の笑顔は消えてしまいそうだから。

「わかった・・・本当にごめんな」

あやまんないですよ。今約束したじゃない。

「じゃあねっ」

こらえてた涙も限界で、こんな顔見せれないから、笑顔でさよなら。そして、走る。それで泣いた。

誰よりも君が好きです。

ココロで叫ぶ。

「続きあんだけど！」

君はあたしを呼びとめた。  
「友達になろうよ」

とりあえず、一歩前進？

（後書き）

初短編です。ドキドキしましたが、一生懸命頑張りました

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3602a/>

---

君のその笑顔がどうしようもなく好き

2010年12月30日04時14分発行